

令和7年度第2回 横浜市広報企画審議会 会議録	
日時	令和7年11月5日（水）午前10時00分～午前11時45分
開催場所	市庁舎18階 みなと6・7会議室
出席者	岩崎建一郎、内田元久、大場 佳代子、加藤杏咲、北見 幸一、中村 暁晶、牧瀬 稔
欠席者	なし
開催形態	一部非公開（傍聴者0人）
議題等	<p>議題</p> <p>（1） より効果的な広聴事業について</p> <p>（2） 市民発信を活用した愛着醸成について</p>
議事要旨	<p>1 議題</p> <p>（1） より効果的な広聴事業について</p> <p>（2） 市民発信を活用した愛着醸成について</p> <p>事務局から議題について説明</p> <p>自由な議論の場とするため、意見交換については非公開とすることが出席委員の承諾により決定。その後委員の意見交換が行われた。</p> <p>（各意見交換に関する主な発言要旨は、次のとおり）</p>
主な発言	<p>議題（1）「より効果的な広聴事業について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルプラットフォームを活用した市民意見募集について、令和7年度は1か月間実施したとのことだが、企業がデジタルでブランディングを実施する場合は、2～3か月に1回の割合で集中的に実施することが多い。色々な事業が推進されるタイミングで意見募集を行い、例えば年4回実施すれば4倍の件数の意見が集められるので、検討してはどうか。</li> <li>・デジタルプラットフォームを使う際に、2段階認証が必要になると、意見を出すことのハードルが高くなってしまわないか。</li> <li>・意見に対するフィードバックをどのようにしていくのか、意見がどのような施策につながっていくのか、8,000件の意見のうち何件の意見が採用されたのか等が見える化されるとよい。</li> <li>・外国人にとっては、言語の壁があり、意見を出しにくい環境。さらに、文化背景の違いから、意見の本当の趣旨を理解することが難しいため、専門機関の手を借りるのも方法の一つ。</li> <li>・プラットフォーム上で他者の意見を見られる環境は素晴らしい。ここに外国人市民の意見が含まれていると、グローバル都市のイメージにつながるのではないか。</li> <li>・「市民からの提案」が市のホームページの最下部にあるが、トップページのもっと上の方に配置した方がよい。さらに、それぞれの施策のページに投稿フォームへの入口があれば、施策に関する意見が集められるのではないか。</li> <li>・ホームページの中に障害者が簡単に意見を出せる環境を作ってほしい。ゼロから意見を書くのではなく、「子育て」、「福祉」、「観光」等、意見の分野を選び、そこからさらに「困りごと」、「良かったこと」、「希望」等の種類を選んだうえで、具体的な内容を書くという流れになれば、障害者や外国人でも意見を出しやすくなるのではないか。</li> <li>・誹謗中傷や無関係な意見が寄せられる課題への対策として、AIを活用することもできるのではないか。</li> </ul>

	<p>議題(2)「市民発信を活用した愛着醸成について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市福祉面の手厚さも取り上げたい。ケアプラザがあるということは横浜市だけなので、PRしたほうがよい。</li> <li>・子育てイベントなどで、保護者はたくさん写真を撮っている。例えば、イベントに参加した両親がホームページ内に簡単に写真をアップできるようにすると、口コミで広がるのではないかな。</li> <li>・地域のコミュニティラジオ局など、地域密着のメディアを活用して情報発信するのも効果的なのではないかな。</li> <li>・市民の「好き」を醸成していくうえで、認知段階の人たちに対しては交通広告のような屋外広告を活用していくのもよいのではないかな。興味関心層に対しては、子育て世帯、単身世帯など、デジタル広告を活用してターゲット別にアプローチしたほうがより効率的。</li> <li>・居住者 100 組を起用して展開するのは非常に良い。自分に近い界限の人たちが思っていることを伝えているのはとてもいい取組なので、この方たちを横浜市のエバンジェリストのような位置づけにして、自ら SNS に投稿してくれるように持っていけるとより良いのではないかな。</li> <li>・街なかポスターの中に「福祉・障害者」などの文言が入っていない。障害者の中にも、横浜いいなと思う方がたくさんいらっしゃるかもしれない。横浜市には横浜ラポールという障害者スポーツ文化センターがあるので、その様子なども入っていると良い。</li> <li>・横浜市の福祉関係団体（横浜ラポール、横浜市社会福祉協議会、横浜市身体障害者団体連合会）のホームページをうまくつなげていただけるといい。ケアプラザや区の社会福祉協議会などのつながりも含めて、そういった福祉に関する施設が充実していることも横浜市のアピールポイントとして入れてほしい。</li> <li>・「だから横浜で暮らしたい」のキャッチコピーを市民に開放して自由に使ってもらえると、色々広がってくるのではないかな。アイデアを公募して、写真も撮ってもらい、コンクール形式にする。市全体が盛り上がってくるのではないかな。</li> <li>・「住みたいまち」、「子育てしたいまち」の調査結果を活用し、「●●市の 10 倍人気がある」、「横浜市VS●●市」というようなPRをすると、市民にとっても認知度が上がって盛り上がり、口コミにつながるのではないかな。</li> <li>・季節に合わせたポスター作りも良いと思う。掲出場所についても、区のホームページなどを活用してアイデアを募集してみてもどうか。事業を身近に感じるきっかけになるのでは。</li> <li>・在住外国人のニーズが高い事業を実施し、参加してもらって発信につなげるという形が有効。また、外国人をモデルとして起用するときには、ロールモデルを作りすぎず、リアルな姿で出てくれる人に出てもらうのがよいと思う。</li> </ul>
資料	<p>議題 (1) より効果的な広聴事業について</p> <p>(2) 市民発信を活用した愛着醸成について</p>